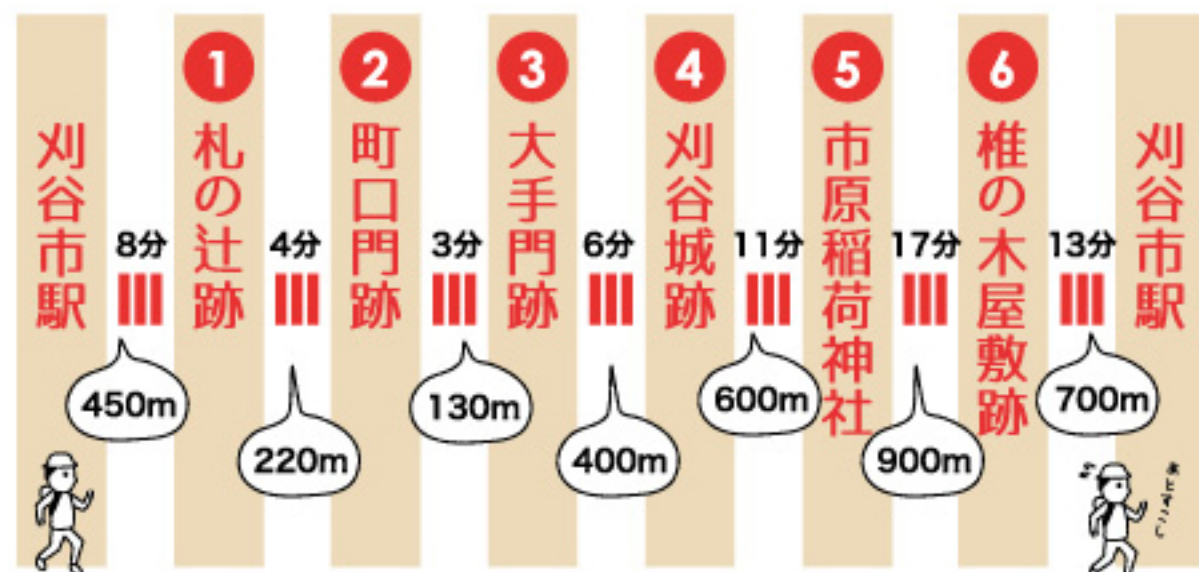




刈谷城内探検コース

当時の城下町から刈谷城の城内を巡りながら、街並を楽しんでいただくコースです。

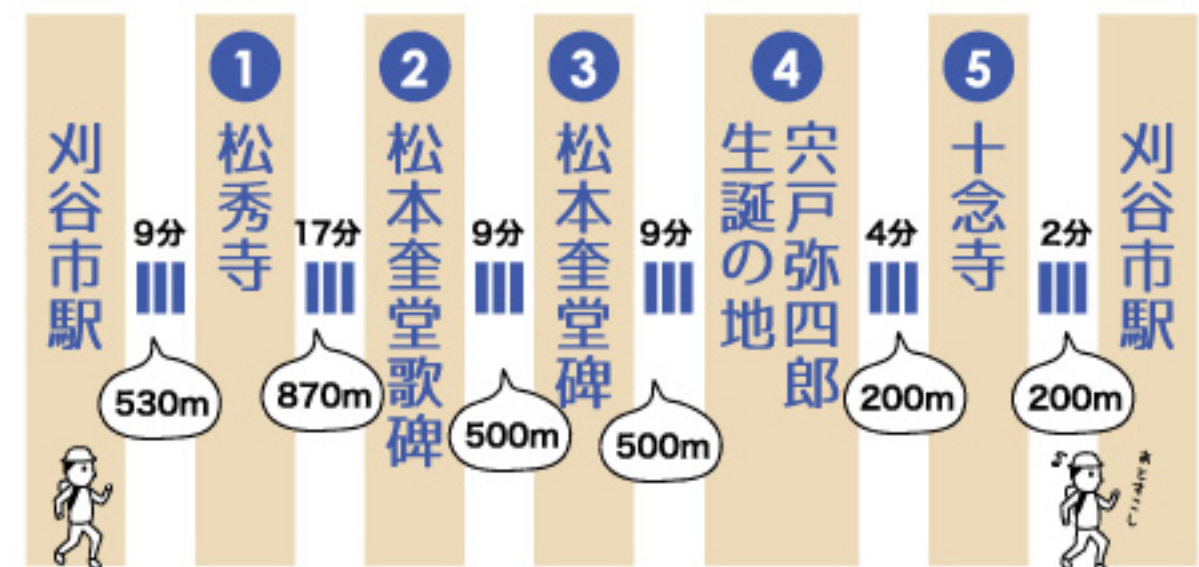
全3.4km
約60分



天誅組関連史跡コース

刈谷から「維新の魁」天誅組に参加した志士達の足跡を辿るコースです。

全2.8km
約50分



ご案内

名鉄刈谷市駅(スタート地点)へのアクセス

■電車をご利用の場合

【JR】名古屋駅から豊橋方面行きに乗り、刈谷で名鉄三河線に乘換 名古屋駅から約25分
【名鉄】名鉄名古屋駅から 豊橋方面行きに乗り、知立で乗換 名鉄名古屋駅から約40分

■車をご利用の場合

名古屋市内から名古屋高速大高線・国道23号線を利用し、今川ICで降り南下約35分



名鉄刈谷市駅には刈谷駅南口から刈谷市公共施設連絡バス「かりまる」でもお越しいただけます



東刈谷・逢妻線



小垣江・依佐美線



バス停の位置や時刻表はコチラをご覧ください

まちめぐりには自転車が便利!

レンタサイクル

電動アシスト付き自転車 26・24インチ

※保証金1,000円必要。問題がなければ自転車返却時にお返しします。

貸出料
無料

貸出窓口 刈谷駅前観光案内所(刈谷市産業振興センター内)
TEL.0566-45-5833

貸出時間 10:00~18:00(案内所の開所時間内)

貸出対象 小学生以上で自転車の乗用に安全上支障がない人。
※小学生の場合は保護者の同伴が必要です。

詳細についてはお問い合わせください

刈谷市歴史博物館

〒448-0838 刈谷市逢妻町4-25-1
電話 0566-63-6100

歴史と未来が輝くまち かりや

歴史の小径

特別
ver.

刈谷城 天誅組



刈谷市マスコットキャラクター
かつなりくん

刈谷城の歴史



刈谷城は徳川家康の生母於大(伝通院)の父親である水野忠政により天文2年(1533)に築城され、衣ヶ浦の奥に位置していました。

江戸時代には刈谷藩が置かれ、刈谷城を中心に城下町が形成され、発展を遂げていきました。刈谷城は、現在産業都市として発展を続ける刈谷のまちの成り立ちの原点であるといえます。現在の亀城公園の場所が当時の城の本丸部分にあたります。



※1 三河と知多半島の間に位置する入江



刈谷藩初代藩主 みずの かつなり 水野勝成

永禄7年(1564)に生まれ、文武両道に優れた武将として知られています。徳川家康の従兄弟にあたる勝成は、大坂夏の陣では城内に攻め入って桜門の1番乗りの旗を立てるなど、多くの武勇をたたえて「鬼日向」とも言われました。

てんちゅうぐみ 天誅組について

天誅組とは、武力による倒幕と尊王攘夷^{※1}

をめざした集団です。文久3年(1863)8月に孝明天皇の大和行幸^{※2}の詔^{※3}を端に、その皇軍の先鋒となるため侍従・中山忠光を盟主として同士38人と挙兵しました。刈谷藩からは、松本奎堂・宍戸弥四郎・伊藤三弥の3名が参加しています。大和行幸が中止になるなど機が熟せず失敗しましたが、その後の明治維新が実現したことから、天誅組は「維新の魁」といわれています。

※1 天皇中心の政権を樹立し、外国人を武力で排除しようという思想
※2 大和国(現在の奈良県)に天皇が行くこと ※3 天皇の命令



まつもとけいどう 松本奎堂

松本奎堂は天保2年(1831)12月7日、刈谷藩で漢学と甲州流軍学の師である松本印南の次男として生まれました。江戸の昌平坂学問所で学んだ秀才として知られています。藩の演武場で槍術の試合中左目を失明しました。天誅組の三総裁の1人として活躍し、最後は天誅組と運命をともにしました。

ししどやしろう 宍戸弥四郎

宍戸弥四郎は、天保4年(1833)1月14日刈谷藩士宍戸弥助の6男として生まれました。天誅組のなかでは合図係を務めたほか、最後は決死隊の副隊長も務めました。



刈谷城復元CG「甦る刈谷城」を好評販売中です

「刈谷城絵図」などの資料に基づき、正徳期(1711~1716)頃の刈谷城や城下町の様子をCGで再現しました。

札の辻から本町を抜け、町口門から城郭内に入り、隅櫓、石垣、表門、土塁などを約8分の映像で表現し、まるでその場にいるかのような臨場感を味わうことができます。

刈谷市歴史博物館、刈谷市役所文化観光課、郷土資料館、刈谷駅前観光案内所にて1枚1,000円で発売中です。



郷土資料館

大正末期から昭和初期の建築様式をとどめる亀城小学校旧本館を保存活用して、昭和55年に開館した資料館です。

常設展示室には、民俗資料が展示されています。建物は平成11年2月17日に国の登録文化財になりました。



開館時間/午前9時~午後5時

休館日/月曜日(祝日の場合はその翌日)、祝日の翌日、年末年始(12月29日~翌1月3日)

※駐車場はありません。亀城公園駐車場をご利用ください。

秋葉社



宝暦6年(1756)秋葉堂が建てられ、翌年から祭りが行われました。安永7年(1778)になって各町組ごとの出し物として初めて万燈が登場しました。各町の出し物は次第に万燈に統一され、この秋葉祭礼は万燈祭ともいわれるようになりました。

祭りは長い伝統を受け継ぎ、火難防除・町内安全の感謝と祈りを込めて、現在でも続けられており、県の無形民俗文化財に指定されています。

さらに詳しい情報は

「歴史の小径」城下町・城下町周辺をご覧ください。

(刈谷市歴史博物館で配布しています)

もっと刈谷の情報をしりたいなら
「かりやの歴史と文化」ウェブサイト

刈谷 歴史 検索

かつなりくんの情報なら
刈谷市 マスコットキャラクター
かつなりくん

かつなりくん 検索



天誅組 関連史跡コース



しょうしゅうじ
1 松秀寺
曹洞宗の寺です。境内には、穴戸弥四郎の墓があります。
★裏面「穴戸弥四郎」



まつもとけいどう
2 松本奎堂歌碑
松本奎堂が詠んだ辞世の句「君か為 命死にきと 世の人に 語りつきてよ 峰の松風」が彫られています。
★裏面「松本奎堂」



まつもとけいどう
3 松本奎堂碑
松本奎堂碑は明治32年(1899)9月、刈谷士族会によって、奎堂の旧屋敷跡に建てられました。碑文は奎堂の旧友であった岡鹿門(仙台藩士/幕末～明治の漢学者)によるものです。



ししどやしろう
4 穴戸弥四郎生誕の地
穴戸弥四郎は、刈谷藩士穴戸弥助の6男として生まれました。江戸で兵法を学び、官をやめた後、尊王攘夷の風潮が盛んになると、京に上り、松本奎堂らとともに天誅組として倒幕の兵を挙げ大和に向かいました。



じゅうねんじ
5 十念寺
浄土宗の寺で、松本奎堂の墓があります。江戸時代後期の刈谷藩主土井家の廟所もあります。

歴史の小径 刈谷城・天誅組 散策ガイド MAP

特別
ver.

P 駐車場 トイレ
公共施設連絡バス停留所
東刈谷・逢妻線 小垣江・依佐美線



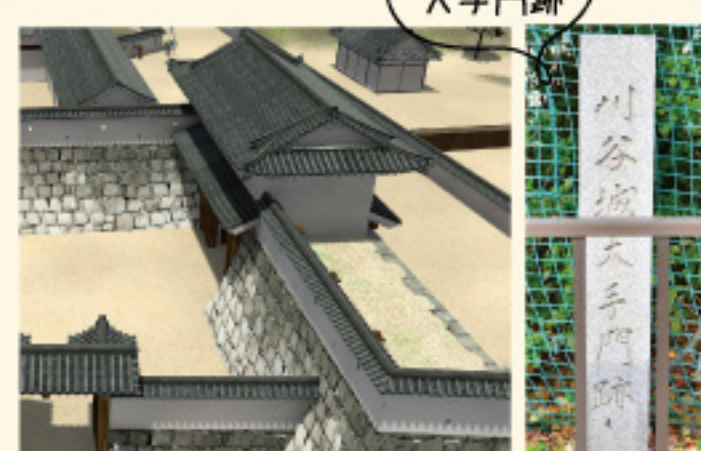
刈谷城内 探検コース



ふだ つじ
1 札の辻跡
高札(幕府や藩の法などを伝える掲示板)が建てられていたところ、ここからが城下町のメインストリートでした。当時は道が交わって、辻(十字路の意味)になっており、この辻のところに高札があったことから「札の辻」と言われました。



まちぐちもん
2 町口門跡
城下町と城内を分ける中心の門がありました。町人は鑑札がないと通行できませんでした。鑑札を願い出た者には「町口門通り札」(通行証)を渡し、城内で商売をすることなどを許可していました。



おおももんあと
3 大手門跡
大手門とは城の表正門にあたるところです。門の前には番所があり、通ることができるのは藩士のみでした。



かりやしろう
4 刈谷城跡
現在、城跡は亀城公園として市民の憩いの場となっています。

たちみやぐら すみやぐら
■辰巳櫓(南東隅櫓)
櫓は城の重要な防御拠点でした。矢を収める武器庫や、矢を射るための場所であり、城の角部は周囲を見渡しやすく、戦で重要な場所になるため、角部に建てられた櫓は隅櫓と言われました。また城が四角形の場合は、櫓を方位で呼ぶことが多く、南東(辰巳の方向)にある櫓として辰巳櫓と呼ばれていました。
たちみやぐら
■多門櫓
辰巳櫓(南東隅櫓)を中心に両側に多門櫓が続いていました。戦になれば弓や鉄砲を撃つ防御の拠点ですが、普段は倉庫としての役割も兼ねていたと思われます。
いぬいやぐら
■戌亥櫓(北西隅櫓)
刈谷城の北西(戌亥の方向)にあった櫓は、衣ヶ浦の海を見通して知多まで見渡すことができ、権威を示す天守のような役割をもっていたと思われます。現在は十朋亭が建っています。

いちばらいなりじんじや
5 市原稻荷神社
大化の改新直後、亀狭山(現在の亀城公園)に創建されたと言われています。水野忠政の刈谷城築城とともに市原の地に移りました。代々の刈谷藩主は市原稻荷神社に社領を安堵(その土地の支配を与えること)していました。

きやしき
6 椎の木屋敷跡
徳川家康の生母である於大が、岡崎の松平広忠に離縁されて刈谷に戻った際、一時、住んでいたと言われています。江戸時代には霊地(神聖な土地)として一般的には出入りが禁止されていました。



このあたりに市原湊という港がありました

江戸時代の藩校「文礼館」の碑があります

道が狭いので気を付けて!

